



## 愛川ふれあいの村10月の風景

# 平成28年10月 自然のたより

だんだんと日中の気温が低くなり、村内の木々が紅葉し始めています。村のメインロードを飾るイチョウは上から下へ黄色から緑色のグラデーションになっており、来村者を楽しませてくれています。

秋に見られる昆虫もだんだんと少なくなってきており、徐々に冬へと移り変っていることが分かります。



ツリフネソウ



イロハモミジの紅葉



フジバカマ



ノスリ



ネキトンボ



ホトトギス



蜜を吸うモクドク



クロヒカゲ



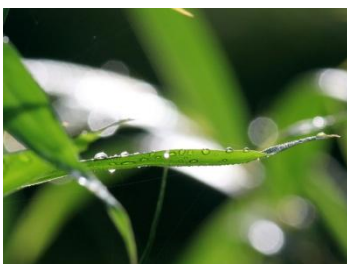
ジョロウグモ



ツバメシジミ



アズマヒキガエル



光が反射する雨粒



イボバッタ



マユタテアカネ



メスグロヒョウモン

## ◆植物と生き物の密接な関係◆

冬に向けてチョウは越冬準備を始めています。チョウは、卵→幼虫→蛹→成虫という成長をします。

さて、ここで大切なことは幼虫期の食べ物です。

実は、チョウやカミキリ、オトシブミなどの昆虫は幼虫期にエサとして食べる植物が決まっており、それを『食草』または『食樹』と言います。

例えば、アカボシゴマダラはエノキ、モンキチョウはシロツメクサやレンゲソウといったマメ科の植物で冬を越します。他の昆虫は活動時期の春から夏ごろ、クワカミキリはクワやイチジク、ケヤキ、そしてオトシブミはクリやコナラ、ハンノキに卵を産み、葉を食べて成長していきます。

冬に越冬するアカボシゴマダラは、エノキの葉が無くなる冬の前に葉をたっぷり食べ、真冬はエノキの根元や落ち葉の裏などに貼り付いていたりします。

樹木の葉(ひこばえ)を邪魔だからと言って切ったり、落ち葉を景観維持のために掃いたりすると、安全面や管理面としては非常に良いかもしれませんが、しかし、昆虫は生きるために必死になって暖かい場所やエサの確保ができる場所で生活をしています。

人間の一方的な価値観だけでなく、生き物と上手く共生できるよう、私たちも生き物のことを知り、自然環境を大切に生活しましょう。そうすればもっとさまざまな生き物を見ることができるとも思われます。(大瀧)



アカボシゴマダラの幼虫



アカボシゴマダラの成虫

## ▼ムササビ▼

ムササビは、初夏と冬の2回に繁殖期を迎えます。ムササビの子どもは、生まれてからおよそ2カ月で巣の外に出てきます。10月、11月は、ちょうど子どもたちが巣の外に出始める時期です。

夕方、近隣の森から村へやってきて、樹洞の巣から木の実や葉っぱなどの餌を探しています。「グルルル」と鳴き声が聞こえたら、ムササビが近くにいるかもしれません。

この時期は、葉が落ち始めているので、樹上で食事をしているムササビを見つけやすいです。防寒対策をしっかりと、ウォッチングを楽しんでください。(高橋)

※野生動物の観察には、懐中電灯に赤いセロハンを張るなど、動物に対しての配慮をお願いします。



## ★旬のお知らせ：ギンナン★

ふれあいの村のメインストリートはイチヨウとモミジの並木道です。この時期になると黄葉・紅葉が鮮やかでとても美しいです。

さて、イチヨウの果実である『ギンナン』は、サクランボのような形をしていてかわいいですが、形とは裏腹に匂いがきつく、晩秋ともなると沢山の果が落下し、独特な香りを発しています。

しかし食べると美味しく、ビタミンAB群、ビタミンC、鉄分、カリウムといった、感染症を予防する成分が多く含まれています。

風邪をひきやすい秋から冬には最適な食材です。「茶碗蒸し」「炊き込みご飯」「煮物」等で食べ方を工夫し、美味しく食べて風邪に負けたいようにしたいですね。(菅原)



## ◎十一月の

### 注目ポイント◎

十一月は暦で『霜月(しもつき)』といい、その語源は『霜降り月』の略という説が有力視されているようです。冬間近の冷えた土や葉に霜が降り始める時季で、まさに十一月にぴったりですね。

霜月の語源は他にもいくつかあり、その一つに『食物月(をしも)のつき』があります。十一月は『新嘗祭(にいなめさひ)』と呼ばれている、その年に採れた新米などの穀物を神様に奉げて五穀豊饒に感謝をする宮中恒例祭典があり、他にも全国各地で収穫に感謝し祝う行事が多くあります。そのため十一月は『食物月』と呼ばれ、それが略されて『霜月』になったとも言われているのです。作物が育ちにくい冬を考えると、収穫の重要性が良く分かります。

野生動物たちにとっても、秋の実りは影響します。厳しい冬を乗り越えるためには、沢山の食糧が必要になります。

今年もふれあいの村ではドングリや銀杏など沢山の実りがありました。きつこの村に食料を求めてやってくる動物もいることでしょうか。

秋の実りに感謝をしながら、冬支度を進めてみてはいかがでしょう。(天野)



発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611 HP：http://fureai-aikawa.com/

写真：吉田文雄・大瀧裕基子

文章：高橋博・天野智裕・菅原妙子・大瀧裕基子

編集：大瀧裕基子・吉田文雄



愛川ふれあいの村で、検索★